図書館問題を検討改善するための商議会専門委員会スタート

現在学内では種々の委員会がつくられ，新しい大学の構想や大学の改革が検討されつつある。このようなときにあたって，附属図書館および学部図書室をふくめた全学の図書系部門にあっても，それらのうごきと決して無縁ではありえない。むしろ大学改革とともに考えていかねばならぬ多くの問題をもっているのである。　以上のような趣旨で，昨年11月28日に附属図書館商議会が開かれ（商議会の項参照），附属図書館および部局図書室のもっている種々の問題を検討するために，商議会のなかに新たに専門委員会を設けることになった。そしてその第１回の会議は12月24日に開催された。委員会のメンバー（１部暫定）は次のとおりである。

宍戸圭一教授（委員長，図書館長），織田武雄教授（文），小倉親雄教授（教育），上山安敏教授（法），大野英二教授（経），小松醇郎教授（理），脇坂行一教授（医），犬伏康夫教授（薬），林千博教授（工），貝原基介教授（農），保田清教授（教養），椹木義一教授（工研），満久崇麿教授（木研），青山秀夫教授（経研），森鹿三教授（人研），植竹久雄教授（ウ研），湯川秀樹教授（基研），岡村誠三教授（原子炉）　（順不同）

一会　議

○附属図書館商議会　＜とき：昭和44年11月28日（金）＞

〔議題〕 **本学における図書館の諸問題を検討改善するための委員会を設ける件**

館長よりその要旨と必要性の説明があったのち，種々提起された問題点を論議の結果，次のようなことが確認された。

①商議会の一組織としての委員会をまず作る。

②したがって，構成メンバーはとりあえず部局長を除く商議員とし，研究所関係からの委員の人選は研究所側に一任。

③委員会結成の上で改めて職員・学生の参加問題等について考慮する。

④昭和41年４月に出された「京都大学附属図書館報告書」とは時点的に相違がある。将来は大検委・月曜会の方とも提携できる状態にもって行く。

⑤委員会の終了時期は明確ではないが，館長任期の問題もあり，また大検委や月曜会との関連性も充分考慮にいれなければならないので永続的なものではない。

⑥議長は館長がその任にあたる。

○図書館商議会専門委員会　―第１回―　＜とき：昭和44年12月24日（水）＞

今回ははじめての会合であるため，今後この会議でどんな問題を検討するか，またどのような方向に会議をすすめていくかについて委員間で意見が出され，毎月１回水曜日に開催されることなどが決定された。次回からは，附属図書館長の地位，商議会のありかた，部局図書委員会・部局図書室に関すること，附属図書館と部局図書室との関係，予算問題などについて，問題点の範囲をしぼって逐次検討されていく予定である。

○赤外線標準スペクトル・チャート運営協議会　＜とき：昭和44年11月７日（金）＞

昨年度一括購入時からの経過・利用状況の概略ならびに44年度補充チャート410,230円の配分の割合について，館長より説明があり，学部内の化学教室数に比例する配分割合には各委員とも異議なく，下記の割当額が了承された。

今回の割当単位額	@	37,293円60銭
工　学　部	⑤	186,468円
理　学　部	②	74,587円

農　学　部	①	37,294円
薬　学　部	②	74,587円
化学研究所	①	37,294円

なお，この日の席上で，主に図書の収集面における協力を意図した「化学系図書こん談会」を発足させることもきまった。

○国立大学図書館協議会常務理事会

＜とき：昭和44年12月12日（金）　ところ：東大図書館＞

まず，この6月千葉大学で開かれた第16回総会以後の各調査研究班，特別委員会の活動状況，および，総会で決定された要望事項について，8月7日文部大臣に直接要望したことが報告された。

議題としては，とくに岸本奨励賞の募集について意見がかわされ，本年度は例年より締切を早め，2月末日とすることに決定。また「新しい大学図書館像」に関する委員会の発足は，各大学における検討の進みぐあいとの関係で，あらためて考慮することになった。

○国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会　―第3回―

＜とき：昭和44年11月25日（火）　ところ：大阪府臨海センタービル＞

関西地区で第3回目の標記懇談会は，近畿を主とする国公私立各大学30館の参加を得て開かれた。午前中は主として国会図書館印刷カードの普及について国会図書館からその現状や問題点ないし努力目標が言及され，これに対し種々の観点から協議された。この印刷カードは，米国でＬＣ（議会図書館）カードが広く利用されているように，わが国でも国会カードが使用できれば，図書館業務の合理化と標準化が大きく促進される重要な問題であるので，熱心な質疑応答がなされた。

午後は国会図書館業務の機械化計画について報告があり，コンピューター導入の第1次5カ年計画の段階では，主に洋書関係（ＬＣのＭＡＲＣⅡテープを使用しての収書，総合目録や逐刊目録の編さん等），第2次の和書関係の計画について詳しい説明を聞き質疑を行なった。この会合の午前午後の問題を通じて，大学図書館に影響するところが大きいだけ，国会図書館に対する要望と期待が大きく，また今後われわれも国会図書館と緊密な連繋を保って行くことの重要さが確認された。

―講演会

▽欧米の大学図書館における機械化の現状　小田泰正（国立国会図書館業務機械化準備室長）

＜とき：昭和44年11月24日（月）　ところ：楽友会館＞

昨年開かれたIFLAの総会，国際目録専門会議での報告および実際に見てこられた図書館を中心に，欧米の大学図書館における機械化の現状について述べられた。各国ともMARCへの関心が高まり，MARCテープを利用して大学図書館の機械化を進めていこうとする傾向にあること，更に各国がMARC IIのFORMATと互換性をもたせてNational Bibliographyの機械化を計っている。図書館の本格的なオートメーションはオン・ラインによらねばならないとのことであった。

図書館人としての立場からの講演であったので図書館関係者にとって大変有益であった。

▽赤外線標準スペクトルチャート（サトラー）の利用講習会

＜とき：昭和44年12月10日（水）＞

今回の講習会は利用者にその使用法を理解して頂くため，附属図書館赤外線標準スペクトルチャート運営協議会（委員長宍戸館長）が主催して，工学部工業化学講義室で開催された。学内の関係部局から，化学系研究者約200人が参加したが，利用者に対する講習会としてはなかなかの盛況であった。

なお，この資料に関する解説は，すでに本紙の1969年1月号に工学部野崎教授の一文が掲載されているので，参照願いたい。